

●防災とボランティア週間は、平成7年1月17日未明に発生した「阪神・淡路大震災」を契機として、災害時におけるボランティア活動及び自主的な防災活動についての認識を深めるとともに、災害への備えの充実強化を図ることを目的に設けられました。

日頃からの取り組みが試される

# 防災とボランティア



近年、大規模な災害が日本各地で発生しています。

それは苫小牧も例外ではなく、東日本大震災では最大3.8mの津波が押し寄せました。また、昨年は大雨による冠水があり、複数の住宅に被害がありました。

毎年1月15日から21日までを「防災とボランティア週間」として設けられています。

今回は苫小牧で行われている防災活動や社協の取り組み、災害時のボランティア活動を紹介します。

## 地域の防災活動

### グループホーム×小学校×地域住民の合同避難訓練

グループホーム日吉と糸井小学校5年1組は日頃の取り組みを通して交流を深めてきました。この度、お互いに地域住民として避難の経験を積む機会として、町内会などの地域の方も協力し、地震が起き、津波警報が発令された想定し避難訓練を行いました。

#### グループホーム日吉 管理者 近藤 香寿美さん

今回の避難訓練は、町内会や保護者の方などに呼び掛けたところ、70名（そのうち小学生は19名）の参加があり地域力を感じ心強かったです。

特に小学生は、普段から顔が見える関係ができているからこそ、手を引いて一緒に避難してもらうことでお互いに安心することができました。

グループホーム日吉は地域密着型グループホームとして、地域のみなさんとの交流の機会を大切にしています。日常的に小学生が気軽に立ち寄り、一緒に宿題やカルタをするなど、子どもたちの居場所にもなっています。

これからも災害時に備え、小学生や地域のみなさんと協力し合いながら避難訓練を行うことが大切だと感じました。



手を取り合って避難



みんなでふりかえり

#### 苫小牧市立糸井小学校5年1組の感想

車いすに乗っている方の気持ちとかがわかったり、ちゃんとグループホームの方とひなんできたのでよかったです。

小山 愛花さん

ぼくはくるまいすをおしてひなんしていたけど、だんさがあつたり、さかがあつたりして大変だった。 桐木 隆聖くん

いっしょに、話していたおばあちゃんが、『おぼん』で頭をまもっていたので、すごいと思った。 石本 美優さん

●苦小牧の災害は、これまでも地震、大雨、火山噴火などの自然災害が数多くありました。近年は暴風や竜巻、冠水の被害も多くなっています。過去の災害を踏まえ、被害を最小限に抑える防災の取り組みが重要です。

## 防災（災害）ボランティアリーダーの取り組み

社会福祉協議会（社協）では「防災士」を養成し、災害に対して専門的な知識をもつ防災（災害）ボランティアリーダーの登録を進めています。平時は防災ボランティアリーダーとして、研修会や出前講座の企画、実施を行い、災害時には地元の災害ボランティアリーダーとして災害ボランティアセンターの運営に協力いただきます。今年度、登録をした防災（災害）ボランティアリーダーのお2人より活動について伺いました。

水口哲二さん



これまでも日赤の防災ボランティアリーダーとして、東日本大震災の支援で被災地を訪れた事があります。私たちの住む苦小牧で、もしものことが起きた時に、ボランティアとして出来る限り協力したいと考えています。これまでの経験も活かし、取り組みたいと思います。

災害は他人事ではなく、自分事です。少しでも自分が関わることで災害に備えたいと考え活動しています。何かあった後に連携を作るとするのは難しいと思い、今は関係者同士の顔の見える関係を作っていきたいと考えています。ぜひ研修会などでみなさんとお会いし、つながることができたらと考えています。

森竹昌一さん



## 災害ボランティアセンターとは？

災害ボランティアセンターは、大規模な災害時に数多くのボランティアの受け入れ、被災した住民からのボランティアニーズを取りまとめ、マッチング(調整)するために設置されます。

苦小牧市では平成23年9月に「苦小牧市災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル」が策定され、災害時には苦小牧市が社協に災害ボランティアセンターの設置を求め、社協は関係団体と連携を取りながら設置することとなっています。

「苦小牧市災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル」の詳細については、社協ボランティアセンターへお問い合わせください。

## 第1回 防災ボランティアスキルアップ研修会

平常時より災害に対するボランティア意識の高揚を図るため、防災活動に取り組んでいる方や組織同士が情報の交換や繋がりを作る機会とし、防災活動や災害時の活動についての知識を深め、具体的に何ができるのかを学び考える場として研修会を行います。詳細、申込については8ページをご覧ください。